

平成26年 5月 9日 (金)
国土交通省 関東地方整備局
国営昭和記念公園事務所

記者発表資料

国営昭和記念公園、国営東京臨海広域防災公園
平成26年度事業の概要について

平成26年度における国営昭和記念公園及び国営東京臨海広域防災公園の事業概要をお知らせいたします。

発表記者クラブ

竹芝記者クラブ
神奈川建設記者会
都庁記者クラブ
立川市政記者クラブ

問い合わせ先

国土交通省 関東地方整備局 国営昭和記念公園事務所

【全体】

副所長 よしだ たけし 吉田 武史
電話：042-524-1516 FAX：042-524-1535

【各公園の事業概要について】

<国営昭和記念公園>

調査設計課長 とみどころ ひろみつ 富所 弘充
電話：042-524-1089 FAX：042-526-1466

<国営東京臨海広域防災公園>

防災対策推進官 いわさき かずお 岩崎 和夫
電話：03-3529-2171 FAX：03-3529-2173

国営昭和記念公園（東京都立川市・昭島市）

1. 公園概要

本公園は、昭和天皇御在位50年記念事業として設置された国営公園です。昭和54年から整備が進められ、昭和58年10月に開園しました。現在、計画面積180haのうち約169haが開園しており、平成25年度の年間入園者数は約380万人となっています。

2. 平成26年度実施計画

整備費：1,105百万円（平成25年度当初：953百万円）

維持管理費：851百万円（平成25年度当初：762百万円）

事業概要

○平成25年3月に策定した整備・管理運営プログラムに基づき、以下の事業を実施します。

- ・公園利用者の利便性向上を図るため、トイレや赤ちゃん休憩室の改修、西立川公園路広場のバリアフリー化等を行います
- ・安全・安心にご利用頂けるように、老朽化施設の改修等を行います
- ・平成25年8月に全面オープンした「こもれびの里 里の農家」、平成26年4月にオープンした「みどりの文化ゾーン高松口」をはじめとした開園区域の適切な維持管理を行います

3. 今年度の主なイベント

名称	期間
フラワーフェスティバル2014	平成26年3月21日（金）～5月25日（日）（実施中）
サマーフェスティバル	平成26年7月19日（土）～9月7日（日）
立川まつり国営昭和記念公園花火大会	平成26年7月26日（土）
コスモスまつり	平成26年9月13日（土）～10月26日（日）
第91回東京箱根間往復大学駅伝競走予選会	平成26年10月18日（土）
黄葉・紅葉まつり	平成26年11月8日（土）～11月24日（月）
Winter Vista Illumination	平成26年12月6日（土）～12月25日（木）
雪と花の早春フェスティバル	平成27年1月17日（土）～3月8日（日）
フラワーフェスティバル2015	平成27年3月下旬～5月下旬

・イベントは予定であり、内容・期間は変更する場合があります。

・詳しくは各イベント前にHP等でお知らせします。（<http://www.showakinenpark.go.jp/>）

4. 今年度の無料開園日

無料開園日	備考
平成26年4月13日（日）	春の都市緑化推進運動（実施済）
平成26年4月29日（火・祝）	昭和の日（実施済）
平成26年5月5日（月・祝）	こどもの日 ^{※1} （実施済）
平成26年7月26日（土）	立川まつり国営昭和記念公園花火大会 ^{※2}
平成26年9月15日（月・祝）	敬老の日 ^{※1}
平成26年10月5日（日）	秋の都市緑化月間
平成26年10月26日（日）	秋の都市緑化月間

※1 5月5日（こどもの日）は小・中学生の方、9月15日（敬老の日）は65歳以上の方に限り入園無料になります。

※2 7月26日（花火大会）は18時以降の入園者に限り入園無料になります。

5. 平成26年度の主な事業箇所



国営東京臨海広域防災公園（東京都江東区）

1. 公園概要

基幹的広域防災拠点有明の丘地区は、首都圏における大規模な地震災害等に際し、広域防災の政府のヘッドクォーターとして機能する防災拠点です。事業化にあたり、わが国初の国営防災公園事業「国営東京臨海広域防災公園」として、都立公園と一体的に整備を行い、平成22年7月に開園しました。

平常時は、「防災体験学習施設 そなエリア東京」を中心に、防災に関する学習・訓練・情報発信などを行っております。

公園面積：6.7ha（都立公園部分とあわせて13.2ha）

主要施設：本部棟（「防災拠点施設（内閣府施設）」と「防災体験学習施設 そなエリア東京（公園施設）」の合築）、ヘリポート、多目的広場等

2. 平成26年度実施計画

維持管理費： 387百万円（平成25年度当初： 216百万円）

事業概要

- ・平成25年3月に策定した管理運営プログラムに基づき、防災体験学習施設を中心に来館者の方々に対して防災への関心を高め、体験学習や展示を通して災害に対処するための知識、技術などを習得できる魅力的な施設となるよう、施設の運営管理を実施します。
- ・公園の運営状況等についてモニタリング調査を行い、今後の公園運営に反映させます。
- ・内閣府中央防災会議により平成25年12月に発表された新たな「首都直下地震の被害想定」などを踏まえた本部棟内の「防災体験学習施設」の改修を実施します。

（参考）公園の利用状況（平成25年度）

- 「防災体験学習施設 そなエリア東京」の入館者数
255,882人（平成24年度 279,395人）

※家族連れその他、国、都、県、市役所等の行政機関、消防署・消防団・自主防災組織、学校関連の関係者から、民間企業、外国人（インドネシア、スウェーデン、トルコ、中国、韓国、フィリピン、台湾、ブルネイ王国、チリ、ノルウェー、イギリス、ルーマニア、オーストラリア、イラン、サウジアラビア、フィンランドなど）の方など多岐にわたっております。

○ 関係機関による訓練、講習会の実施

【訓練】平成25年度は10回訓練が開催されています。

11月23日 東京都・あきるの市合同総合防災訓練

震災時の地域住民の自主防災能力を充実させ、地域一体としての防災力を向上させ、各防災関係機関の連携強化を図ることを目的に開催。

【講習会】年間を通して、災害・防災に係るボランティアなどによる講習会で利用されています。平成25年度は51回開催されました。

○ イベントの会場利用

東京マラソンの関連イベント「東京大マラソン祭り」「東京マラソンファミリーラン」の会場として園地が利用されました。

園内施設

本公園は、首都圏で大規模な地震災害等が発生したときに公園全体が広域的な指令機能を受け持つヘッドクォーター等となり、平常時には防災に関する学習・訓練・情報発信などの拠点として機能する基幹的な広域防災拠点であるとともに、人々の魅力的な憩いの場となるよう、東京湾臨海部の緑の拠点として臨海副都心におけるにぎわいと交流の空間を提供します。

②ヘリポート

本部要員、救護や傷病者、緊急物資の空輸など大型ヘリコプターの利用も可能な場外離着陸場です。



発災時運用イメージ (平成21年8月自衛隊統合訓練)

③エントランス広場

発災時には災害時医療支援体制の支援機能を発揮するスペースです。



災害時医療支援運用イメージ
(平成20年9月東京都総合防災訓練、平成21年1月災害医療センター訓練)

④多目的広場・草地広場

発災時には、広域支援部隊・ボランティアなどが活動・統制所等として機能する場です。



広域支援部隊等展開イメージ
(平成22年11月緊急消防援助隊訓練)

①本部棟

災害発生時には国と九都県市*の合同現地対策本部が設置され、平常時には防災に関する学習・情報発信の拠点となる体験学習施設等となる本公園の中心施設で鉄筋コンクリート造2階建て延べ床面積約9,500㎡。屋上や壁面の一部は緑化しています。

※:埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、さいたま市、千葉市、横浜市、川崎市、相模原市



現地対策本部運用イメージ
(平成26年1月政府総合図上訓練)



体験学習施設(1階)



②ヘリポート

③エントランス広場

④多目的広場・草地広場

平常時は、各種防災訓練や学習、来園者の憩いの場として利用されています。



エントランス広場からヘリポート、草地広場を望む



東京都・あきるの市合同総合防災訓練(平成25年11月)



東京マラソンファミリーラン(平成26年2月)